

# For the best smile

# TOWA 東和建設 スマイルかわら版 VOL. 20 45th

これからもこの街で

地域密着で貸倉庫・工場をお届けして45周年

## いつもお客様のそばに寄り添いたい。これからもずっと。

私ども東和建設株式会社は、1978年の会社設立当初から、一貫して貸倉庫・貸工場を中心としたリース物件の建設を手掛けてまいりました。その間に培ってきたノウハウを基盤として、当社をご利用頂く全てのお客様に、『どうしたら心から喜んで頂けるか』ということをテーマに、日々の業務に取り組んでまいりました。

現代社会の複雑な仕組みの中で、『貸し手と借り手』のメリットが見事に生かされているのがリース建設の世界だと考えられます。私ども東和建設株式会社は、この『貸し手と借り手』の円滑なパイプ役としてその存在を認められていくべき会社だと考えています。その理念に則して、さらに営業努力を重ね、効率的な土地活用の促進と、リース物件をご利用頂く皆様の事業発展の一助となれますよう、努力を重ねていく所存でございます。



東和建設株式会社 代表取締役 石谷隆平



### 大倉千尋

初めまして、四月に入社いたしました大倉千尋と申します。生まれも育ちも東和建設のある名古屋市西区になります。物件管理も西区・北名古屋・春日井を担当しています。

オーナー様・ご入居者様に、顔と名前を覚えていただけるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

趣味は、プロ野球観戦です。シーズン中は、テレビ中継もいいですが、球場へも足を運びます。球場に近づくにつれ、高揚感が高まり、ゲートを抜けて鮮やかな緑のグラウンドが目の前に広がったとき、心が弾みます。今年は、三年振りに声出し応援も解禁され、多くのファンと応援歌を歌う一体感は、現地観戦でしか味わうことのできない空気感で最高です。応援している球団が勝利した日は、より最高です。周りのファンとハイタッチし、一緒に盛り上がり、喜びを分かち合います。

弊社の社是にも、『お客様の繁栄が我々の使命であり喜びである』とございます。お客様のサポートをさせていただき、お客様と喜びを分かち合える営業担当になれるよう精進してまいります。

## 新人 ニュース



### 星野美和

初めまして、九月から入社いたしました星野美和と申します。主に清須市の管理物件を担当しています。

今までは外装・内装の現場監督をしておりました。工事の際は、お力になれるよう日々精進してまいります。家主様・入居者様に寄り添い、物件管理者として信頼して頂けるよう努力を重ねてまいります。

私事ですが、簡単に自己紹介をします。私は岐阜県羽島市の出身です。学校を卒業と同時に名古屋市に移り住みました。子供が3人居ます。今年は、真ん中の子が受験生ですので高校選びや、子供の将来の仕事について検索したり、一緒に勉強をする日々を過ごしています。子育ては、自分が子供の頃に経験した事や学んだ事を、子供を通して再度体験できます。二人目、三人目は年子です、魔の二歳児・三歳児はとにかく大変でした。思い返すと親になるための修行の日々だったように思います。

そんな子供たちも幼稚園、小学校と卒業し、受験生になりました。子供が生まれた瞬間から、子供の成長と共に親も成長させてもらっているんだなと日々思い知らされます。私の生活は、子供たちが中心です。ご飯を食べるときは栄養バランスを考えて作り、毎日の掃除は子供たちが整理しやすいよう心掛けます。外出するときは、危険な場所がないかなど、物事ひとつひとつに相手の感情や対処方法を常に考えて生活しています。もちろん大変な事ばかりではなく、毎日が楽しい会話や出来事があります。この毎日がいつまでも続くよう、毎日笑って過ごしたいなと思っています。

このように子供たちとの生活の中で、時間の配分や事前の準備、相手への気配りが身に付きました。仕事に役立つと思いますので今後共々よろしくお願いいたします。

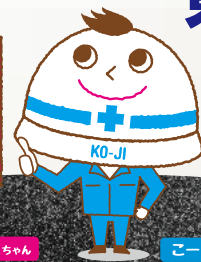
空き物件が  
不足してます!

貸倉庫・工場・テナント  
入居率99%超 2023年  
10月現在

TOWA  
CORPORATION  
SINCE 1978

東和建設

# 事業用地大募集!



そーこちゃん

こーじくん

### 娘が教えてくれた事



小島

昨年産まれた娘が先日一歳の誕生日を迎えました。この一年を振り返り娘が生まれたことで環境の変化に対応すべく、怒涛のような日々でした。それが以上に本当にたくさ



自分が親となり、子供と向き合う中で、まだたったの一歳ですが、可愛いというだけではなく、子育ての大変さや、不安心配に思う気持ち、本当に色んな感情がありました。この度の娘の誕生によって、

んの方々にお世話になってきたことを実感する一年でした。

### 断捨離



兼松

不要な物を断ち切り物への執着心をなくすことで、身軽で快適な生活や人生を手に入れようとする考えです。

コロナ禍の中、ここ数年考えてきました。断捨離で家の中を整理整頓すると、無駄な物を購入することがなくなる。例えば、洋服ダンスやクローゼット

### 圧倒的に暑かった夏



吉田

2023年の日本の夏の平均気温は、北・東・西日本それぞれでかなり高くなったとのこと。2023年の夏は、過去125年間で、最も暑い夏だったそうです。

毎日のように熱中症警戒アラートが発令され連日の暑さで、夜間も気温が下がらないうえに、熱帯夜が続き危険な暑さでした。これまでの傾向が続けば、2024年の夏も猛暑になりそうです。おそろしくこの記録は、毎年更新さ

親をはじめとした身の周りの方々に、どれだけ自分たちが育てられてきたかということを考えさせられました。このような感謝の気持ちときっかけをくれた娘に感謝しています。

仕事においても、自分一人の力でなしえることは一つもありません。自分が日頃関わる人たちを今一度大切に、感謝を忘れず、目の前の一人一人に貢献していける仕事を心掛けていきたいと思えます。

トの中の洋服をいっぱいに収納していると、自分がどの様な服を持っていないか忘れてしまい、同じような服をまた買ってしまつことになりがちです。断捨離で必要な服だけがある状態にしておけばそのような無駄な出費を防止できるでしょう。

洋服を整理している際に、「最近着ていないけど、いつか着るかもしれない」と思っているものも、結局は着ずにクローゼットの奥に閉まったままというのがあります。またというのには、一年間着ていないものは処分するといったルールを自分のできる範囲で決めていくことで、

それに加え、インフルエンザの猛威が収まらず、異例の増加が続いているそうです。流行が長期間なかったことによる免疫低下や人の往来増が要因とされているそうです。注意が必要ですね。

合わせて冬は、新型コロナの同時流行も懸念されており、5類になってイベントを再開している所も多いようなので注意していきたいなあと思っております。

2023年のあまりの暑さに、見かけなかつたアマガエルが、十一月に入り弊社鉢植えのペゴニアにひよこり現れ、気持ちよさそうに水浴びをしているようで、ほっこりした気持ちになりました。



2024年も貸倉庫の東和建設をよろしくお願ひ申し上げます。

### 隆平の徒然歩記<sup>20</sup>

つれづれあるき TUREZUREARUKI

隣町 TONARIMACHI 次駅 TSUGINOKEI

写真と文・石谷



### 漢詩 静夜思

李白(はく) 中国盛唐(AD701-AD762)  
李白(はく) 中国盛唐(AD701-AD762)  
李白(はく) 中国盛唐(AD701-AD762)  
李白(はく) 中国盛唐(AD701-AD762)  
李白(はく) 中国盛唐(AD701-AD762)  
李白(はく) 中国盛唐(AD701-AD762)  
李白(はく) 中国盛唐(AD701-AD762)  
李白(はく) 中国盛唐(AD701-AD762)  
李白(はく) 中国盛唐(AD701-AD762)  
李白(はく) 中国盛唐(AD701-AD762)



「静かな夜の思い」  
寝台の前までさしこんだ月の光。地面に降りた霜ではないかと、ふと思った。だがそれは白い月の光であった。顔をあげては山にかかると、断ち切るように列車は走って行く。

恐らくは旅先の旅館で盃を手にながら詠んだのではないかと推察して、つい共感を覚えてしまふ。私自身が既に老境に至つたことがその原因であろうか。

列車の窓から外の景色を眺めながら、缶ビールを呑む。炭酸の刺激が乾いた喉に心地良い。車窓のワイドスクリーンには、次から次へと日本の原風景が映し出されている。

山ばかり多い日本の地形の特質から、どの路線を選んでも視界に入るのは「山また山」の繰り返しである。海のそばを走っている場合でも、やはり反対側は山地である場合が多い。その山裾を次から次へと、断ち切るように列車は走って行く。

断ち切れない場合がトンネルという訳だ。そして、それらの山々が育んだ清冽な川の流れる時に渡り、また渡り返す。私は、山から流れ出した行程の短い名も無い河川が海に注ぎ込む場所が特に好きだ。(日本海側)に多く見られる。

車窓から眺める景色に

はそんな場所が頻繁に目の前に現れる。そこには「川と汽水域と海」とを行ったり来たりしている魚たちが暮らしているはずだ。頭の中を魚たちが泳いでいる。キス、ボラ、クロダイ、スズキ、フグ、ハゼの仲間、緯度によってはアユ、アマゴ、ヤマメなどのサケ科の魚たち。数え上げればキリがない。

列車の中でスポーツ新聞や週刊誌を読み耽つている紳士には、土台味わえないだろう充実した景観が、惜しげもなく目の前をよぎって行く。この路線を再び選ばない限り二度と同じ景色には出逢えない。

だから首が痛くなるほど眺めていても飽きることはない。すぐ脇を鉄道が走っているのに、駅までは遥かに遠い集落がある。

人間の営みがそここに見え隠れする。小さな商店がある。小さな学校がある。通学途中の子どもたちが小さな列を作っている。火の見櫓が見える。防火用水が見える。郵便屋さんのバイクが走っている。

隠し田のように狭小な棚田の中で、農作業に勤



しむ老夫婦がいる。車窓から見える街並みや、山間の集落。あの家々に暮らす人たちは、いったいどんな暮らしをしているのだろうか。ひとり旅をするたびにそんなことを考える。旅人たる私自身が、これらの人たちが再び出逢う確率は恐らく皆無に近いだろう。

後2駅で目的の駅だ。豊橋駅から鈍行に乗って3時間半余り、50駅目の駅に着く。心は既に「李白」の心境を写して天竜川の畔(ほとり)を歩いている。 終わり

東和建設の公式サイト HPRリニューアル! 右のQRから簡単アクセス!